



2019年 3月期 第2四半期 決算説明会

2018年11月12日

石油資源開発株式会社

注意事項

本資料に掲載されている当社の現在の計画、見通し、戦略、その他歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しを示したものです。実際の業績は、さまざまな要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。

本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。

Copyright: 本資料に含まれるすべての内容に関する著作権は、当社が有しています。
事前の承諾なく、これらの内容を複製もしくは転載することはお控えください。

注: 本資料において (a) は実績数値を、(f) は予想数値を示しています。

本資料に関するお問い合わせ、その他IRに関するご質問は、以下にお願いいたします。

石油資源開発株式会社 広報IR部 IRグループ 電話 03-6268-7111

説明会の内容

I. 事業の概況

代表取締役社長 社長執行役員 岡田 秀一

II. 2019年3月期 第2四半期決算の概要

取締役 常務執行役員 山下 通郎

III. 2019年3月期 通期業績予想の概要

取締役 常務執行役員 山下 通郎

I . 事業の概況

代表取締役社長 社長執行役員
岡田 秀一

長期ビジョン・中期事業計画

■ 長期ビジョン2030

「石油・天然ガスE&P事業とその供給事業基盤を活かした総合エネルギー企業への成長」

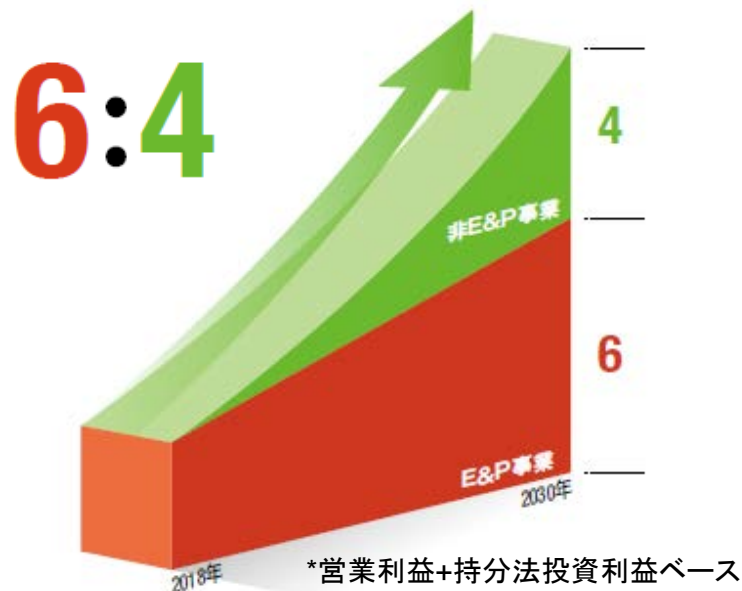
2030年に目指す利益構成

E&P事業 : 非E&P事業 = 6:4

■ 中期事業計画2018-2022

2022年度の目標: ROE \geq 5%への改善
(油価\$60/bbl前提)

2030年の全社利益*構成比率



各事業の計画・目標

E&P事業

長期目標
RRR* $>$ 1の維持

*RRR: Reserve Replacement Ratio

インフラ・ユーティリティ事業

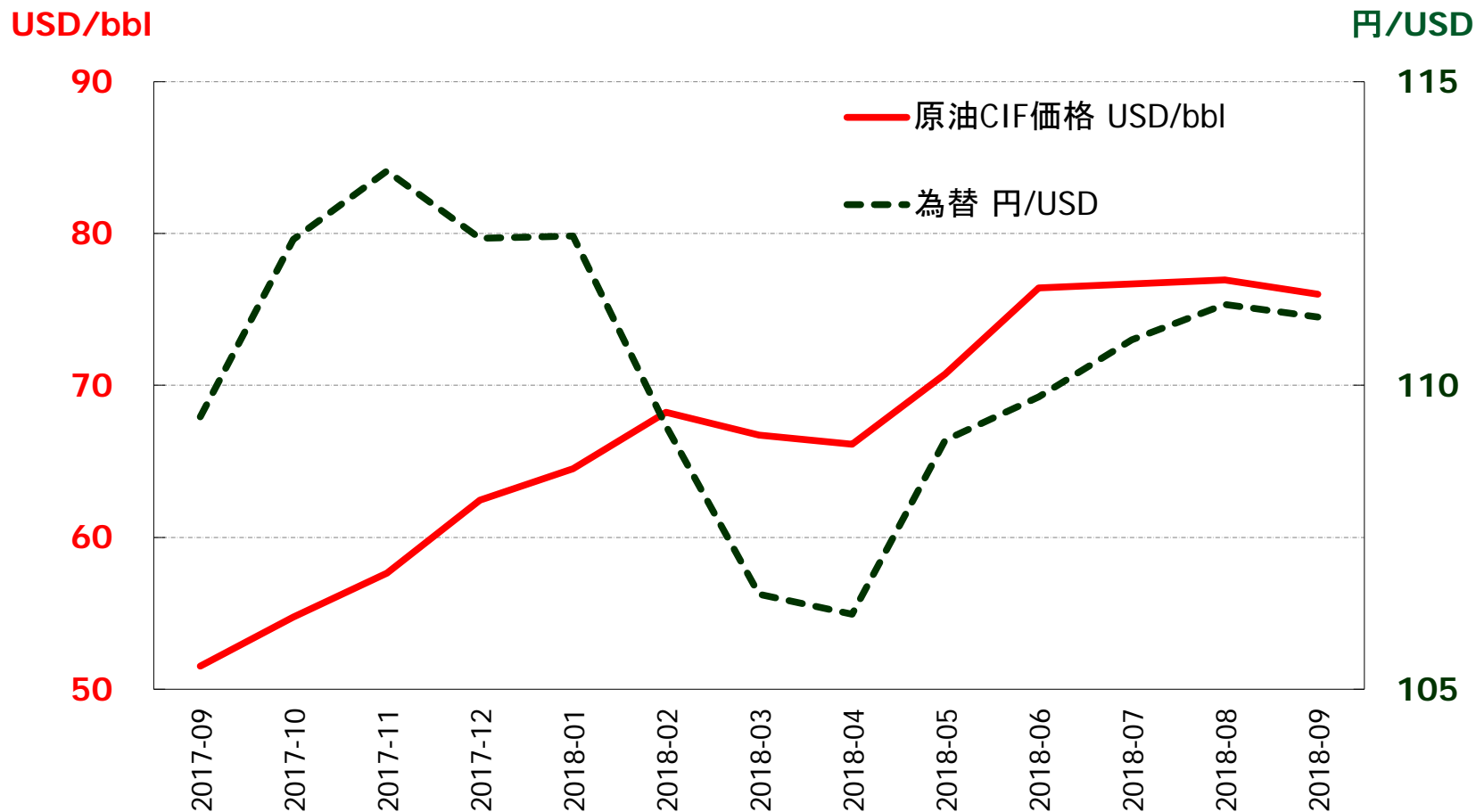
2022年目標
国内天然ガス販売量 160万t
(LNG換算)

電力販売量 28億kWh

新規事業

競争優位性の源泉を活かした「新たなビジネスモデル」による事業創出

事業環境 原油CIF価格と為替の動き



今年度下半期の原油CIF価格および為替想定

USD 75.00/bbl **110.00円/USD**

事業の概況 E&P事業

主要プロジェクトの進捗状況

北海道 勇払油ガス田浅層原油開発

2020年度の重質油生産開始に向けて開発作業中



イラク ガラフプロジェクト

日量23万バレルへの原油増産に向けて開発作業中



カナダ シェールガスプロジェクト

経済性の高いエリアを優先する開発計画を策定し、シェールガスを生産・販売中



インドネシア カンゲアンプロジェクト

2019年第2四半期からの天然ガス生産開始に向けてTSBガス田 Phase2開発作業中



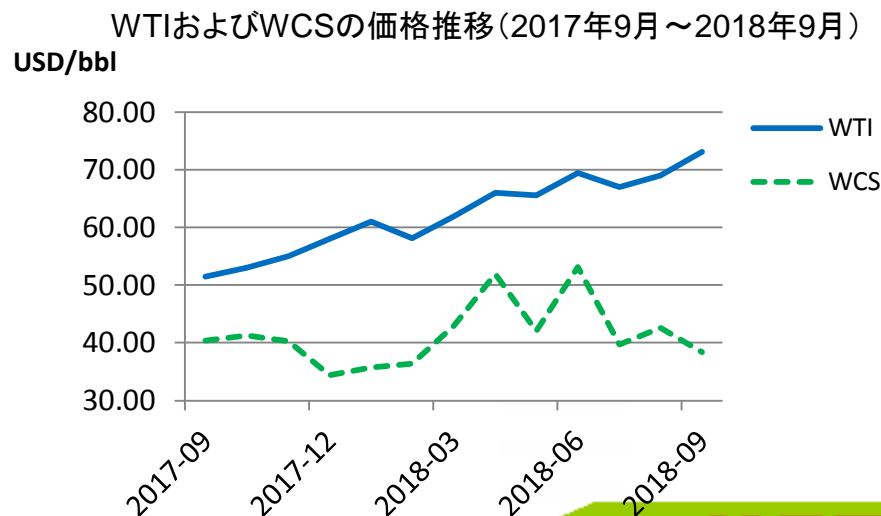
事業の概況 E&P事業

カナダ オイルサンドプロジェクト

- 生産操業： ビチューメンの生産は好調な立ち上がり
 - 2018年6月に日量2万バレルの安定生産操業に移行
 - オイルサンド層の良好な生産能力を期待
- 希釈ビチューメン販売： 厳しい外部事業環境
 - 米国向けパイプラインの輸送能力不足
 - 西カナダ産重質油の価格指標であるWCSとWTIの価格差（重軽格差）の拡大→ 生産・追加投資計画の最適化とコスト削減による収支改善を目指す



△ハンギングストーン拡張開発 中央処理施設(CPF)全景



事業の概況 インフラ・ユーティリティ事業

国内天然ガス供給

- 国内ガス拡販に向けた新規顧客開拓
- 相馬LNG基地ではコミッションングカーゴを含むLNG船を4隻受入



△相馬LNG基地と福島天然ガス発電所
(2018年10月累計第4船入港時)

発電・電力販売

- 相馬港天然ガス火力発電事業
 - 福島ガス発電(株)*による福島天然ガス発電所建設
*当社33%出資
 - 2020年の運転開始に備えた、当社引取り分の電力販売活動を継続中
- 組織改称
 - 相馬プロジェクト本部を相馬・電力事業本部(2018年10月1日付)に改称
 - 電力販売に加え、再生可能エネルギーを含む電力にかかる新規事業の推進体制を整備

事業の概況 新規事業

受託研究を通じた技術の蓄積

- CCS (CO₂分離・回収・貯留技術)
- メタンハイドレート
- 次世代海洋資源調査技術

事業シーズの発掘

- 海外におけるLNG鉄道輸送
- LNGバンカリング
- CO₂-EOR
- 新規事業推進を担当する専門組織の設立準備

筋肉質な企業体質への変革

ポートフォリオ最適化

攻めのコスト削減



将来の成長につながる
筋肉質な企業体質への変革

Ⅱ. 2019年3月期 第2四半期決算概要

取締役 常務執行役員

山下 通郎

19/3月期 第2四半期決算(天然ガス販売)

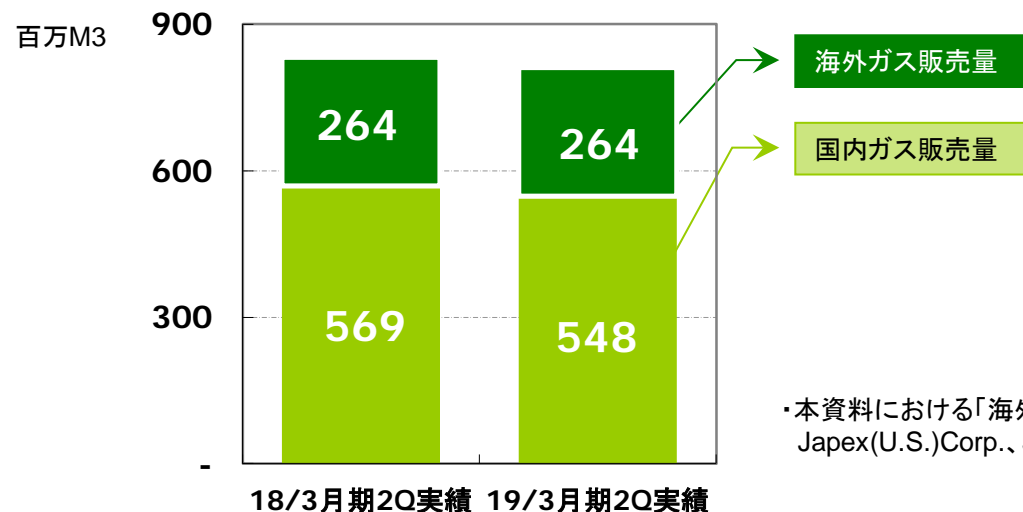
【前年同期比較】

販売量: 百万M3 売上高: 百万円		18/3月期	19/3月期	比較増減
		前期実績 2Q (a)	今期実績 2Q (a)	
天然ガス	販売量	833	813	▲20
	売上高	26,839	27,835	+995

国内販売価格の上昇

販売量内訳

国内ガス販売	販売量	569	548	▲20
(うち国産天然ガス)	販売量	(344)	(287)	▲56
海外ガス販売	販売量	264	264	0



一部需要家における一過性の
需要減

・本資料における「海外ガス」の販売量は、海外連結子会社である Japex(U.S.)Corp.、JAPEX Montney Ltd.の数値を記載。

19/3月期 第2四半期決算(原油販売)

【前年同期比較】

販売量: 千KL 売上高: 百万円		18/3月期 前期実績 2Q (a)	19/3月期 今期実績 2Q (a)	比較増減
原油	販売量	1,548	1,278	▲269
	売上高	53,086	54,305	+1,219

販売価格の上昇

権益原油の内訳

国産原油 (※1)	販売量	146	131	▲15
	売上高	5,713	6,927	+1,213
海外原油 (※2)	販売量	809	185	▲624
	売上高	25,604	9,298	▲16,306
希釈ビチューメン(※3)	販売量	—	496	+496
	売上高	—	13,257	+13,257

イラク ガラフ油田
販売量減少2017年3QよりJACOS/
ハンギングストーン鉱区
からの販売開始

原油価格と為替の前提

原油CIF	USD/bbl	52.44	72.47	+20.03
希釈ビチューメン(※3)	USD/bbl	—	38.37	—
為替	円/USD	111.79	109.18	▲2.61

※1 「国産原油」の販売量及び売上高は、買入原油を除く。

※2 「海外原油」の販売量及び売上高は、海外連結子会社であるJapex (U.S.) Corp.、JAPEX Montney Ltd.、株式会社ジャペックスガラフの数値を記載。

※3 「希釈ビチューメンの価格及び売上高は、ロイヤリティー控除後の数値。

19/3月期 第2四半期決算 【前年同期比較】

単位:百万円	18/3月期	19/3月期	比較増減
	前期実績 2Q (a)	今期実績 2Q (a)	
売上高	112,382	115,136	+2,754
売上総利益	17,884	14,126	▲3,757
探鉱費	643	362	▲280
販管費	13,788	14,946	+1,157
営業利益又は 営業損失(▲)	3,452	▲1,183	▲4,635
営業外損益	5,435	2,476	▲2,959
経常利益	8,888	1,293	▲7,594
特別損益	▲12	618	+630
法人税等	1,108	394	▲714
非支配株主に帰属する 四半期純利益又は 四半期純損失(▲)	10	▲915	▲926
親会社株主に帰属する 四半期純利益又は 四半期純損失(▲)	7,756	2,433	▲5,322

損益変動要因 (MEMO)

「増益要因を +」、「減益要因を ▲」で記載

売上総利益

国内 ▲26億円
海外 ▲10億円

販管費

JACOSにかかる輸送費増 ▲11億円

営業外損益

持分法投資損益 +21億円
借入金の為替換算差額、その他為替差
(18/3期2Q)差益9億円 → (19/3期2Q)差損29億円
▲39億円
支払利息増 ▲11億円

Ⅲ. 2019年3月期 通期業績予想

取締役 常務執行役員 山下 通郎

19/3月期 通期業績予想 修正 【前提条件】

[油価、為替等の前提]

		2018年				2019年	通期
		1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	
原油CIF (J C C)	USD/bbl	前回予想	67.95	70.00	70.00	70.00	69.50
		今回予想	67.95	76.64	75.00	75.00	73.75
為替	円/USD	前回予想	107.42	110.00	110.00	110.00	109.39
		今回予想	107.42	110.61	110.00	110.00	109.60
JACOS 希釈Bitumen	USD/bbl	前回予想	33.48	43.19	39.48	38.04	38.64
		今回予想	33.48	43.05	41.16	30.23	37.59
JML Gas	CAD/mcf	前回予想	2.04	1.35	1.40	1.40	1.56
		今回予想	2.04	1.21	1.64	1.90	1.65

1. “JACOS希釈Bitumen” は JACOS社の希釈ビチューメン販売価格（ロイヤルティ控除後）
2. “JML Gas” は Japex Montney社のガス販売価格（ロイヤルティ控除後）

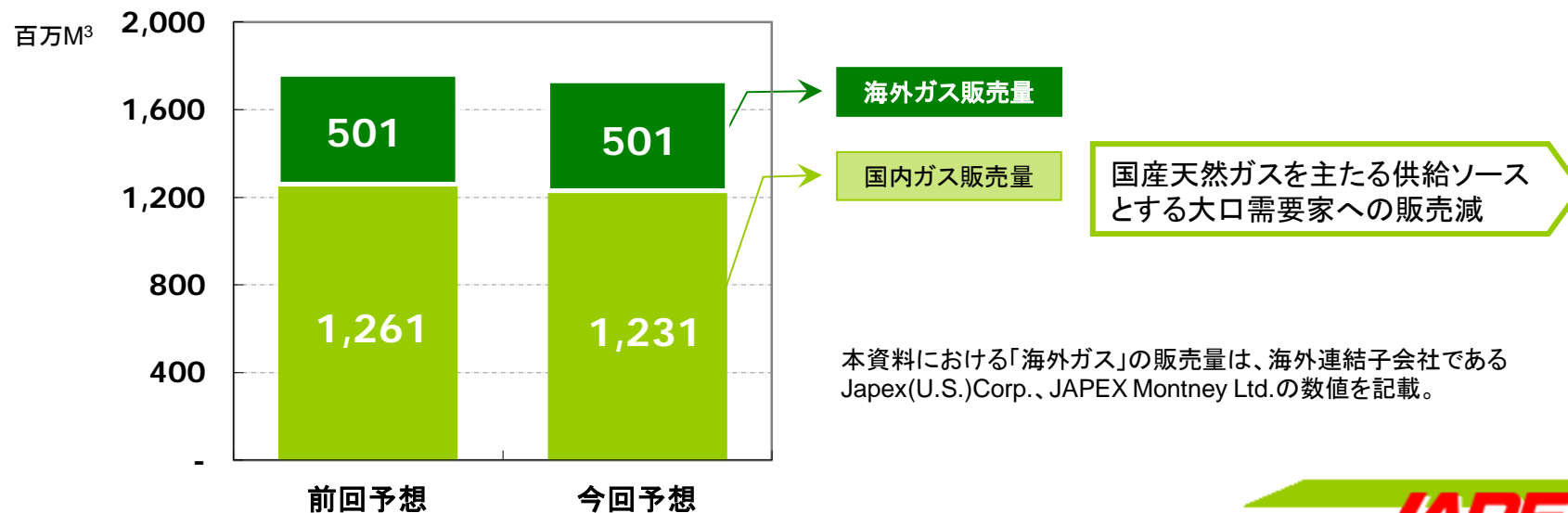
19/3月期 天然ガス 販売予想 修正 【8.8公表比】

販売量: 百万M ³ 売上高: 百万円		19/3月期	19/3月期	比較増減
		前回予想 通期 (f) 8.8公表	今回予想 通期 (f) 11.9公表	4-3月 通期
天然ガス:	販売量	1,762	1,731	▲30
	売上高	66,604	66,113	▲490

国内ガス販売量減少

販売量 内訳

国内ガス販売	販売量	1,261	1,231	▲30
(うち国産天然ガス)	販売量	(632)	(614)	▲17
海外ガス販売	販売量	501	501	0



19/3月期 原油 販売予想 修正 【8.8公表比】

販売量: 千KL 売上高: 百万円		19/3月期	19/3月期	比較増減
		前回予想 通期 (f) 8.8公表	今回予想 通期 (f) 11.9公表	4-3月 通期
原油:	販売量	3,310	3,240	▲69
	売上高	133,476	138,320	+4,843

販売価格の上昇

[権益原油の内訳]

国産原油 (※1)	販売量	258	264	+6
	売上高	12,986	14,093	+1,107
海外原油 (※2)	販売量	720	528	▲191
	売上高	33,447	26,149	▲7,297
希釈ピチューメン(※3)	販売量	1,284	1,183	▲100
	売上高	34,335	30,792	▲3,542

イラク ガラフ油田
販売量減少・JACOS 生産計画の
見直しによる販売量減少
・販売価格見直し

[油価と為替の前提]

原油CIF価格	(USD/bbl)	69.50	73.75	+4.25
希釈ピチューメン価格 (※3)	(USD/bbl)	38.64	37.59	▲1.05
為替/米ドル	(円/USD)	109.39	109.60	+0.21

※1 「国産原油」の販売量及び売上高は、買入原油を除く。

※2 「海外原油」の販売量及び売上高は、海外連結子会社であるJapex (U.S.) Corp.、JAPEX Montney Ltd.、株式会社ジャペックスガラフの数値を記載。

※3 「希釈ピチューメン」の価格及び売上高は、ロイヤリティー控除後の数値。

19/3月期 業績予想 修正 【8.8公表比】

単位：百万円	19/3月期	19/3月期	比較増減
	前回予想 通期 (f) 8.8公表	今回予想 通期 (f) 11.9公表	
売上高	284,019	288,330	+4,310
売上総利益	34,083	32,089	▲1,993
探鉱費	1,055	907	▲148
販管費	30,902	30,656	▲246
営業利益	2,125	526	▲1,599
営業外損益	7,878	11,864	+3,985
経常利益	10,003	12,390	+2,387
特別損益	660	613	▲46
法人税等	968	1,454	+486
非支配株主に帰属する 当期純損失(▲)	▲1,311	▲843	+468
親会社株主に帰属する 当期純利益	11,007	12,393	+1,386

損益変動要因 (MEMO)

「増益要因を +」、「減益要因を ▲」で記載

売上総利益

国内

+2億円

海外

▲ 22億円

営業外損益

持分法投資損益

+24億円

借入金の為替換算差額、その他為替差損

(前回)差損36億円 → (今回)差損19億円

+16億円

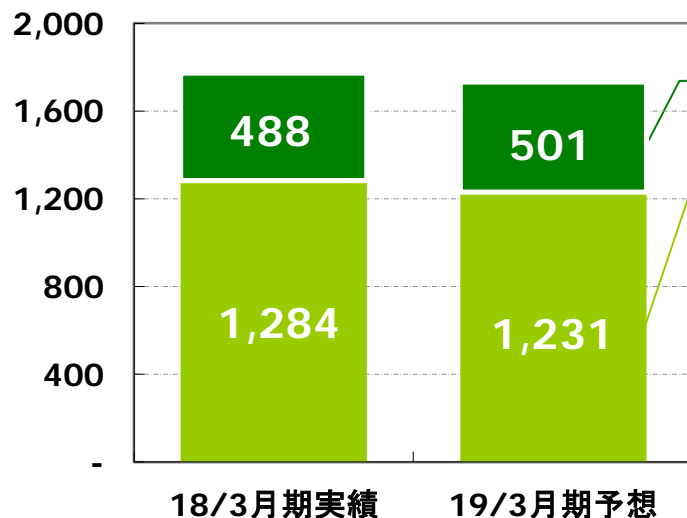
19/3月期 天然ガス 販売予想 修正 【前期比】

販売量: 百万M ³ 売上高: 百万円		18/3月期	19/3月期	比較増減
		前期実績 通期 (a)	今回予想 通期 (f) 11.9公表	4-3月 通期
天然ガス:	販売量	1,773	1,731	▲41
	売上高	60,431	66,113	+5,682

国内ガスの
販売価格上昇

販売量 内訳

国内ガス販売	販売量	1,284	1,231	▲54
(うち国産天然ガス)	販売量	(739)	(614)	▲124
海外ガス販売	販売量	488	501	+12

百万M³

海外ガス販売量

カナダ シェールガス販売量の増加

国内ガス販売量

- ・ 一部需要家における一過性の需要減
- ・ 前期 都市ガス増販の反動減

本資料における「海外ガス」の販売量は、海外連結子会社である Japex(U.S.)Corp.、JAPEX Montney Ltd.の数値を記載。

19/3月期 原油 販売予想 修正 【前期比】

販売量: 千KL 売上高: 百万円		18/3月期	19/3月期	比較増減
		前期実績 通期 (a)	今回予想 通期 (f) 11.9公表	4-3月 通期
原油:	販売量	2,506	3,240	+734
	売上高	93,685	138,320	+44,634

販売数量増加
販売価格の上昇

[権益原油の内訳]

国産原油 (※1)	販売量	291	264	▲27
	売上高	12,265	14,093	+1,829
海外原油 (※2)	販売量	991	528	▲464
	売上高	33,749	26,149	▲7,600
希釈ビチューメン(※3)	販売量	160	1,183	+1,023
	売上高	4,512	30,792	+26,280

イラク ガラフ油田
販売数量減少

JACOS 通年生産、
安定生産到達による
販売量増加

[油価と為替の前提]

原油CIF価格	(USD/bbl)	56.20	73.75	+17.55
希釈ビチューメン価格 (※3)	(USD/bbl)	39.63	37.59	▲2.04
為替/米ドル	(円/USD)	111.67	109.60	▲2.07

※1 「国産原油」の販売量及び売上高は、買入原油を除く。

※2 「海外原油」の販売量及び売上高は、海外連結子会社であるJapex (U.S.) Corp.、JAPEX Montney Ltd.、株式会社ジャベックスガラフの数値を記載。

※3 「希釈ビチューメン」の価格及び売上高は、ロイヤルティ控除後の数値。

19/3月期 業績予想 修正 【前期比】

単位：百万円	18/3月期	19/3月期	比較増減
	前期実績 通期 (a)	今回予想 通期 (f) 11.9公表	
売上高	230,629	288,330	+57,700
売上総利益	39,263	32,089	▲7,174
探鉱費	1,324	907	▲418
販管費	29,173	30,656	+1,482
営業利益	8,764	526	▲8,238
営業外損益	▲4,936	11,864	+16,800
経常利益	3,828	12,390	+8,562
特別損益	▲73,231	613	+73,845
法人税等	239	1,454	+1,215
非支配株主に帰属する 当期純損失(▲)	▲38,683	▲843	+37,841
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲30,958	12,393	+43,352

損益変動要因 (MEMO)

「増益要因を +」、「減益要因を ▲」で記載

売上総利益

国内 ▲63億円
海外 ▲8億円

販管費

JACOS通年生産にかかる輸送費増 ▲23億円

営業外損益

持分法投資損益 +129億円
借入金の為替換算差額、その他為替差損益
(前期)差益27億円 → (当期)差損19億円
▲46億円
(前期)JACOS
DEMO償却費の減少 +78億円

特別損益

(前期)カナダLNGプロジェクトにかかる減損失剥落
+729億円
(当期)不動産売却益 +7億円

油価・為替の前提及び収益への影響：対象期間 3Q-4Q

		18/3月期	19/3月期				
		1Q-4Q(a)	1Q(a)	2Q(a)	3Q(f)	4Q(f)	1Q-4Q(f)
原油CIF価格	USD/bbl	56.20	67.95	76.64	75.00	75.00	73.75
為替	円/USD	111.67	107.42	110.61	110.00	110.00	109.60
カナダ産ガス価格	CAD/mcf	2.07	2.04	1.21	1.64	1.90	1.65

油価と為替の前提	原油CIF価格 (3Q-4Q)	為替 (3Q-4Q)	カナダ産ガス価格 (4Q)
	USD 75.00/bbl	110.00円/USD	CAD 1.90/mcf 85円/CAD
収益影響額	USD 1 /bbl の 油価上昇による 利益増加額は…	1円/USD の 円安による 利益増加額は…	CAD 0.5 /mcf の カナダ産ガス価格上昇 による利益増加額は…

営業利益	100 百万円	130 百万円	70 百万円
親会社株主に帰属する 当期純利益	80 百万円	70 百万円	60 百万円

注：為替変動の影響に関して、上記に示したものの以外に、外貨建金銭債権債務の為替レート換算差額が発生します。
また、実際の利益は原油価格や為替以外の様々な要因によっても影響されます。

<参考資料>

E&P事業① 国内・海外での取り組み



<参考資料>

E&P事業② 国内の取り組み

- ✓ 国内10カ所の油ガス田で生産中
- ✓ 国内埋蔵量の補填、および生産量の維持を追求
- ✓ 国の基礎調査等を通じた海域における探鉱ポテンシャルの追求

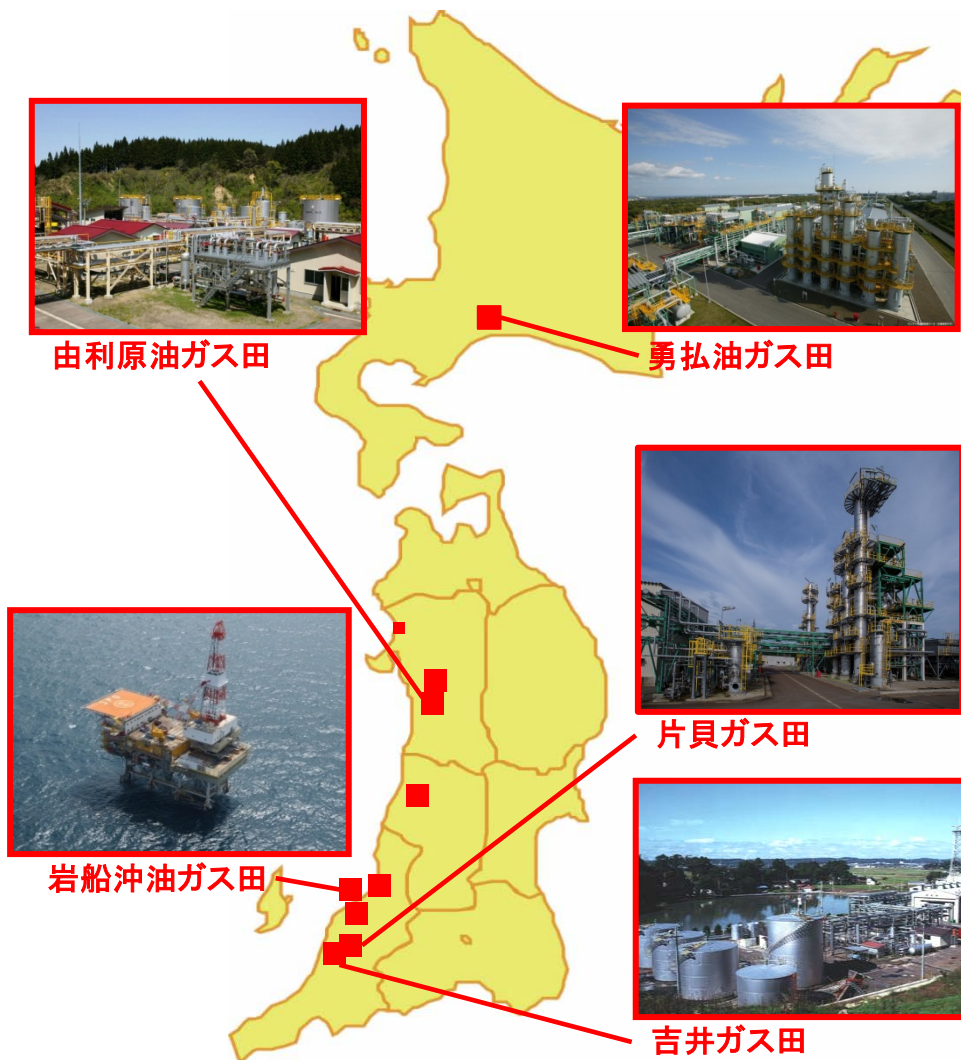
■現在進行中の主なプロジェクト

勇払油ガス田
浅層原油開発

2020年度の生産開始に向けて開発作業中

日高沖合における基礎試錐事業

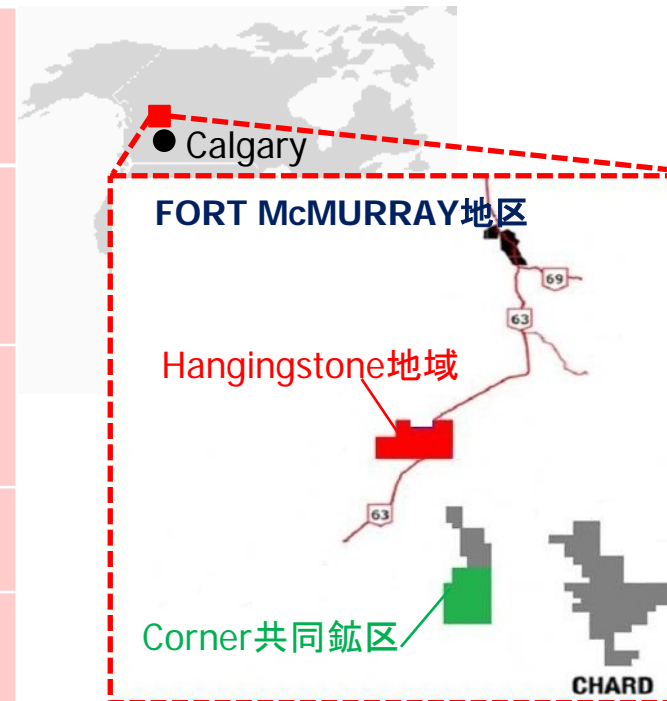
2019年度の試掘に向けて準備作業中



<参考資料>

E&P事業③ カナダ オイルサンドプロジェクト

プロジェクト 会社	カナダオイルサンド(株) (CANOS) オペレーター : Japan Canada Oil Sands Ltd. (JACOS)	
鉱 区	ハンギングストーン地域 (権益比率) 75% 日量2万バレル規模から段階的拡張を予定	生産中
	コーナー共同鉱区 (権益比率) 12%	評価 作業中
	その他ビチューメン鉱区 (コーナー、チャード等)	検討中
	近況 2018年1月; ソンベリー、チャードノース(25%保有)を放棄 2018年4月; ハンギングストーン3.75セクション(100%保有)を売却	



■ハンギングストーン開発スケジュール

2013年2月	開発作業(初期土木工事)着手
2017年2月	施設建設工事完了
2017年4月	水平坑井ペアへの水蒸気圧入開始
2017年8月	生産開始
2018年6月	日量2万バレルでの安定生産操業へ移行

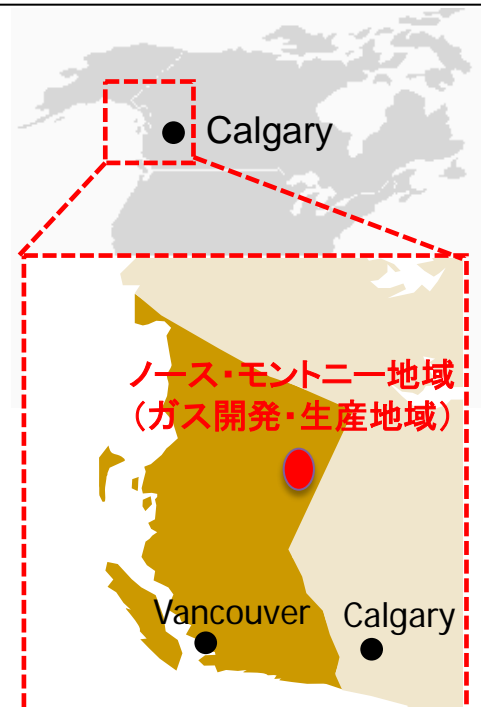


△ノトリ アルバート首相(左より2人目)を交えた生産操業開始記念セレモニーの様子

<参考資料>

E&P事業④ カナダ シェールガスプロジェクト

	シェールガスプロジェクト(上流)	LNGプロジェクト(中流)
鉱区/ プラント 候補地	カナダ ブリティッシュ・コロンビア州ノース・モンターニー地域	同州プリンス・ルパート レルー島
当社子会社 参加比率	10%権益	10%持分
オペレーター	PETRONAS (子会社含む)	PETRONAS (子会社含む)
現況	日量約5億立方フィートのシェールガス生産・販売中 経済性の高いエリアを優先する開発計画を策定	2017年7月25日に取りやめを決定



■プロジェクトスケジュール

2013年4月	当社参入
2017年7月	LNGプロジェクト取りやめを決定
現在	上流事業の開発計画を策定、事業価値および収益の最大化へ向けた取り組みを継続

<参考資料>

E&P事業⑤ イラク ガラフプロジェクト

プロジェクト会社	(株)ジャペックスガラフ	
参加比率	30% (資金負担40%) オペレーター：PETRONAS	
油田名	ガラフ油田	生産中



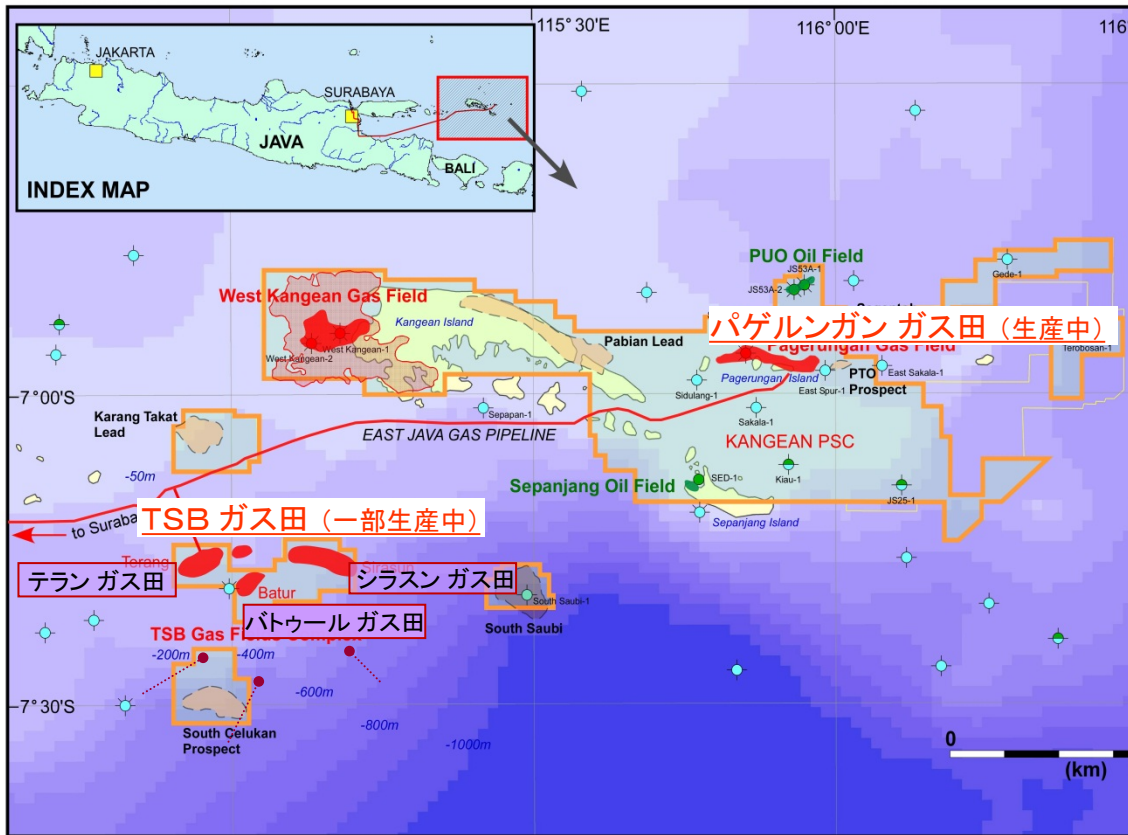
■開発スケジュール

2013年	8月 ガラフ油田 生産開始 平均生産量：日量約6.4万バレル
2014年～2020年	生産継続 2018年9月現在：日量約9万バレル ※日量23万バレルへ向け段階的に生産量引き上げ
2020年末	日量23万バレル到達予定



<参考資料>

E&P事業⑥ インドネシア カンゲアンプロジェクト



プロジェクト
会社

Kangean Energy
Indonesia Ltd. (KEI)
他2社 : 持分法適用会社

権益比率

25% (オペレーター: KEI)

2018年9月現在の生産量は、日量1.5億立方フィート(原油換算で約2.6万バレル)

□ TSBガス田

(Phase1 テラン) : 2012年5月生産開始

生産日量1.4億立方フィート(原油換算で約2.4万バレル)

(Phase2 シラスン、バトゥール) : 2019年2Q生産開始に向け開発作業中

テラン・ガス田のFPU(洋上生産施設)

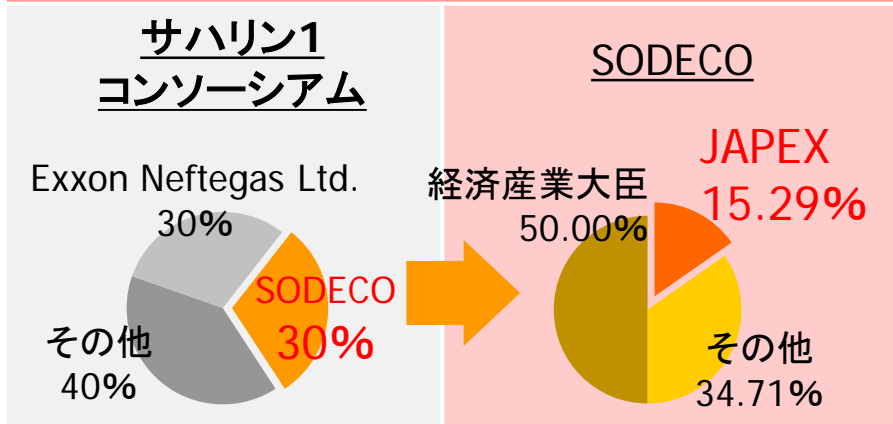


<参考資料>

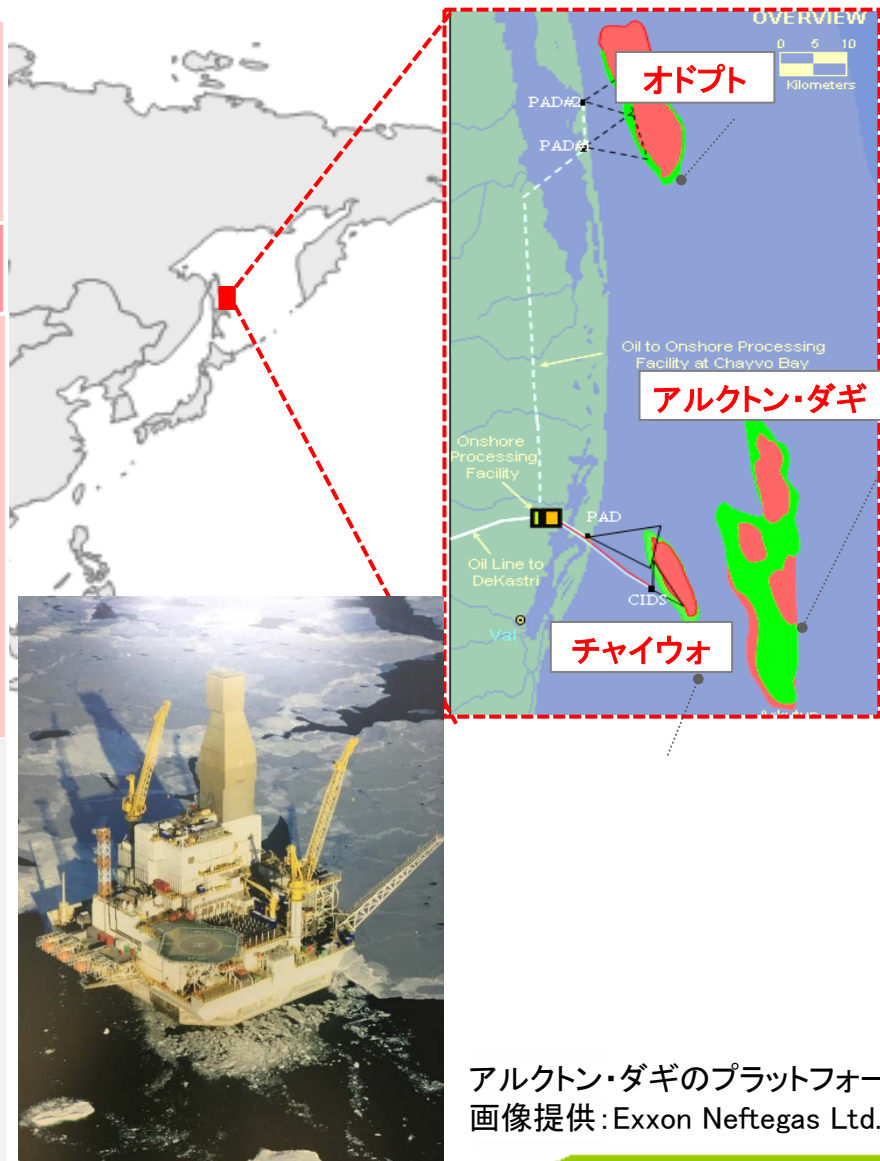
E&P事業⑦ ロシア サハリン1プロジェクト

プロジェクト会社	サハリン石油ガス開発(株) (SODECO) 持分法適用会社
----------	----------------------------------------

権益比率



<p>チャイウオ</p> <p>オドプト</p> <p>アルクトン・ダギ</p>	<p>3油田で生産中</p> <p>※ チャイウオは2017年に大偏距掘削で 掘進長 15,000mの世界記録を達成</p>
------------------------------------------	----------------------------------------------------------------



アルクトン・ダギのプラットフォーム
画像提供: Exxon Neftegas Ltd.

<参考資料>

インフラ・ユーティリティ事業① 相馬LNG基地

■相馬LNG基地設備概要

建設地	福島県相馬郡新地町(相馬港4号埠頭)
容量	地上式PC型23万kl(約10万t)貯槽×1基
受入設備	LNG外航船:1式(最大21万m ³ 級) LPG内航船:1式(最大2,500m ³ 級)
気化器	送出能力:7.0MPa 75t/h×2基
出荷設備	LNG内航船:最大4,800m ³ 級 LNGローリー:5レーン、30t/h
操業開始時期	2018年3月

上記の他、発電事業の実施に合わせてLNGタンク(23万kl 1基)と気化設備を増設予定。

■相馬・岩沼間ガスパイプライン設備概要

起点・終点	起点:相馬LNG基地 終点:岩沼分岐バルブステーション
口径	20インチ
設計圧力	6.86MPa(メガパスカル)
距離	約39km
相馬LNG基地からの送ガス開始時期	2018年2月



△相馬LNG基地全景

<参考資料>

インフラ・ユーティリティ事業② 天然ガス火力発電事業

■福島天然ガス発電所 計画概要

発電事業者	福島ガス発電(株) ※
動力および発電方式	ガスタービンおよび汽力 (ガスタービン・コンバインドサイクル方式)
発電規模	118万kW(59万kW発電設備×2基)
燃料	天然ガス(LNGを気化) 使用量 70~100万t/年(利用率60~90%)
熱効率	送電端 60.64%(LHV,大気温度15℃)
ガスタービン	1,500℃級
蒸気タービン	蒸気条件(高圧/中圧/低圧) 600/600/284℃ 15.6/3.34/0.5MPa
排熱回収ボイラ	蒸気量 370/85/50t/h NOx排出濃度 5ppm以下

■スケジュール

2016年10月	事業化決定
2017年6月	環境アセスメント手続き完了
2017年10月	現地工事開始
2020年	商業運転開始(1軸目=春、2軸目=夏)(予定)

※福島ガス発電(株)(2015年4月設立) 出資比率
石油資源開発33%、三井物産29%、大阪ガス20%、三菱ガス化学9%、北海道電力9%



△将来計画を含む相馬LNG基地および福島天然ガス発電所完成イメージ



<参考資料> 新規事業

CCS(CO2分離・回収・貯留技術)

日本CCS調査(株)(JCCS)を通じ、2012年4月から北海道苫小牧市においてCCSの実証プロジェクトを推進。2018年10月末時点の累積CO2圧入量約20万7千トン。

メタンハイドレート

日本メタンハイドレート調査(株)を通じ、2017年に第2回メタンハイドレート海洋産出試験を実施。

現在、表層型メタンハイドレートに関する資源回収技術・探査技術の研究開発作業を継続中。

次世代海洋資源調査技術

2014年より「次世代海洋資源調査技術研究組合(J-MARES)」を通じ、熱水鉱床などの海底鉱物資源の調査技術の確立とその技術を用いた民間調査産業の創出を目指す。



画像提供: 日本CCS調査(株)

△苫小牧CCS実証プロジェクト地上設備



△熱水噴出によって形成されたチムニー
(塊上の多金属硫化物鉱床)

<参考資料>

略語集

● BOE(D)	Barrels of Oil Equivalent (per Day)	石油換算バーレル(日量)
● CCS	Carbon dioxide Capture and Storage	二酸化炭素の回収、貯留
● CIF	Cost, Insurance and Freight	運賃、保険料込条件
● COP	Conference Of the Parties	気候変動枠組条約締約国会議
● CSR	Corporate Social Responsibility	企業の社会的責任
● E&P	Exploration and Production	石油天然ガスの探鉱・開発・生産
● FID	Final Investment Decision	最終投資意思決定
● GHG	Greenhouse Gas	温室効果ガス
● HE	Hangingsstone Expansion	(カナダオイルサンド)ハンギングストーン拡張開発プロジェクト
● HSE	Health, Safety and Environment	労働安全衛生・環境
● IOR (EOR)	Improved (Enhanced) Oil Recovery	増進回収法
● JCC	Japan Crude Cocktail	全日本平均原油輸入CIF価格
● JOGMEC	Japan Oil, Gas and Metals National Corporation	(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構
● LNG	Liquefied Natural Gas	液化天然ガス
● MH	Methane Hydrate	メタンハイドレート
● P/L	Pipeline	パイプライン
● PNWL	Pacific North West LNG	カナダシェールガス・LNGプロジェクト
● ROE	Return on Equity	自己資本利益率
● RRR	Reserve Replacement Ratio	埋蔵量置換率
● SODECO	Sakhalin Oil & Gas Development Co., Ltd.	サハリン石油ガス開発株式会社
● TSB	Terang, Sirasun, Batur	テランガス田、シラスンガス田、バトゥールガス田
● WTI	West Texas Intermediate	ウェスト・テキサス・インターミディエイト原油